

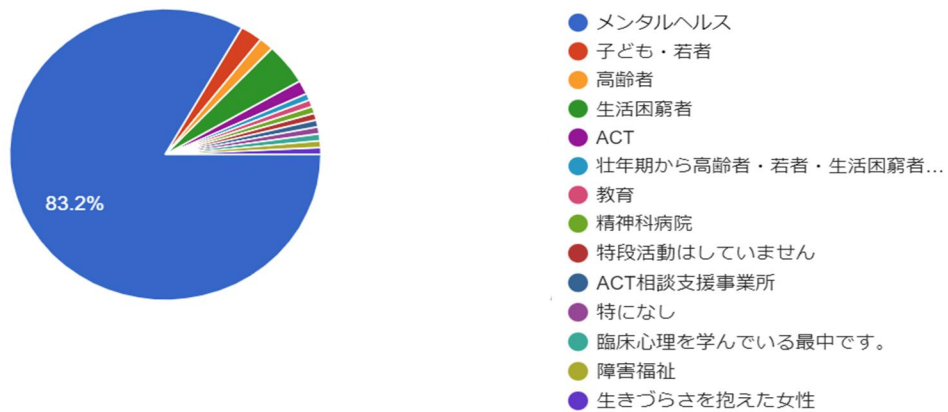
アウトリーチネット 第1回全国大会

アンケート最終結果(2022.10.10)

1日目

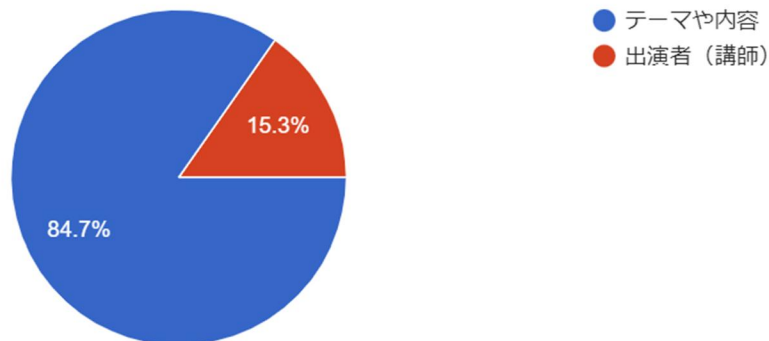
【質問1】 あなたが活動されている分野を教えてください。(複数回答可)

131件の回答



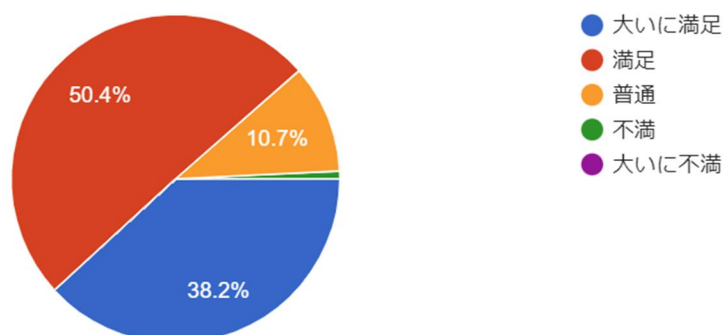
【質問2】 本日参加されたのは、どちらがきっかけですか？

131件の回答



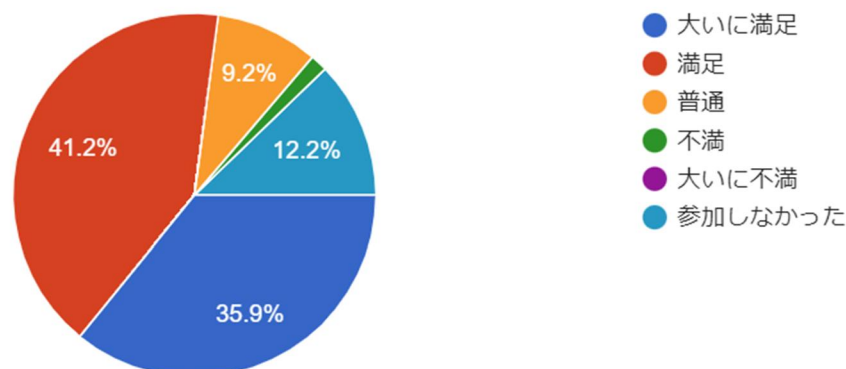
【質問3】 大会全体の印象はいかがでしたか？

131件の回答



【質問4】 シンポジウム「アウトリーチの複雑さや難しさについて」はいかがでしたか？

131 件の回答



- ・ 多様なアウトリーチがあることがよくわかり、視野が拓かれた感じがした。
- ・ 普段の支援を振り返るきっかけになりました。西邑さんがおっしゃっていた、常に悩み、支援の工夫を考え続けることが宿命で、失敗することもあるという言葉が心に残っています。
- ・ アウトリーチを生業とする先駆者の話を聞いて良かったです。
- ・ 全国のそれぞれの立場で活躍する方々の報告はとても参考になった。
- ・ 色々な立場から、アウトリーチの話が聞いて勉強になりました。
- ・ 簡単ではないとはわかっていましたが、よりリアルに痛感することができました。
- ・ 実践からの紹介がとてもわかりやすかった。
- ・ なかなか他では聞くことのできない貴重なお話を拝聴できました。
- ・ 谷口さんが混ざることによって他分野との差異が（いい意味で）際立ち、かつ共通性があることがシンポジウムの中で立ち現れてとても面白かった。
- ・ 行政や子ども・若者の支援など、自身の領域外の話が聞いてとても新鮮でした。アウトリーチをする上で、様々な領域との連携が必要になると改めて実感しました。その地域や日本全体でネットワークを広げていきたいですね。
- ・ 「アウトリーチが万能ではない」という謙虚な態度に好感がもてたしエンパワメントされた。
- ・ チームで対象者に関わっていく事の大切さについて、さらによくわかった。ただ、チームとはいえ、やはり医師に対して発言する時には緊張がある。まだ、チームとして未熟なのかもしれません。
- ・ 皆さんの活動がリアルに理解できた。自分自身の振り返りのためにもなり満足しています。ありがとうございました。
- ・ 障害福祉をしていて関係性が重要だと感じていたので、人と人のつながりが重要と聞き、嬉しく思いました。
- ・ 私は当事者という立場で拝見したのですが、専門家のみなさんは裏でこんなに私たちのことを考えてくれていたんだと思い、一方で困難な状況もあり申し訳ない気持ちになりました。
- ・ シンポジスト各々の活動の内容や理念に触れ勉強になりました。特に佐賀の谷口さんの多面的な活動にエネルギーを貰いました。個々が抱える課題に対して、訪問だけでなく、これがあるといい、ステップになると考えることを作っていったり、連携したりしていくことが素晴らしいと思いました。そこには、行政の制度をよく知り、関係を取り、実践の場を作っていくことが必要だと改めて感じました。「どんな境遇の子どもも若者も見捨てない」の言葉を「精神障害を持った方、生活に困りごとを感じている

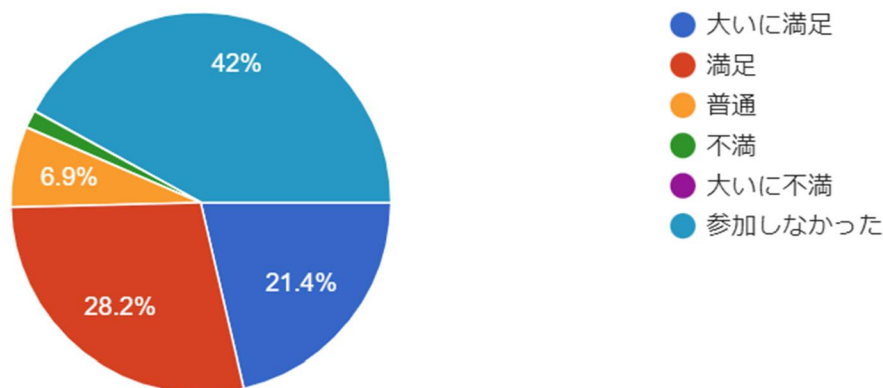
方」として日々の活動をしていきたいと思ひます。

- ・ 登壇された先生方が、とてもバイタリティに溢れお話を聴くだけで刺激的でした。複雑さの中で、地域社会のコンセンサスが得られるか、というところが依然として横たわっている現状も垣間見えました。
- ・ 日々、アウトリーチの複雑さ、難しさ、葛藤を感じていたので、とても興味深い内容でした。支援は、手を差し伸べる支援にならず、時に人を傷つける支援になるという言葉がとても心に刺さりました。「寄り添う」という言葉があるが、谷口さんの「相手のチャンネルにあわせる」はとても理解しやすかったです。貴重なお時間に講話いただき、ありがとうございました。
- ・ 京都府の西邑さんがご自身の役割を意識して長年実践してこられたことを知り、とても励まされました。自分たちの地域の行政の方々に聞いてもらいたいと思ひました。福島の人倉さんが言われた”海賊船”のお話は、確かに現在は大海賊時代、それを心得て航海せねばと思ひました。
- ・ 素人にもわかりやすかったです。歴史的な背景も知れて良かった。
- ・ 人と人の関わりの要素が大きいアウトリーチ支援は、その人だけでなく家族や、その本人・家族に関わる全ての人たちと連携も取っていく必要がある。根本的に連携をとっていくことが一番難しいと感じました。どうすれば良質な生活支援、そして医療を届けられるのか、答えは決まっているのではなく、支援対象者それぞれだと思ひます。「全てはパーフェクトにいかない」という言葉がありましたが、その通りだと思ひます。その中で私たちは最善を尽くしていく。そのために本人・家族・周囲の関わる人たち、そして多職種連携がとても大切な要素だと感じています。今後私たちはさらに、どうすれば最善の連携がとれるかを追及していく必要があると感じています。

【質問5】 部会による自主企画分代会 I について教えてください

(質問5-①)ACT部会(入門編)はいかがでしたか？

131 件の回答



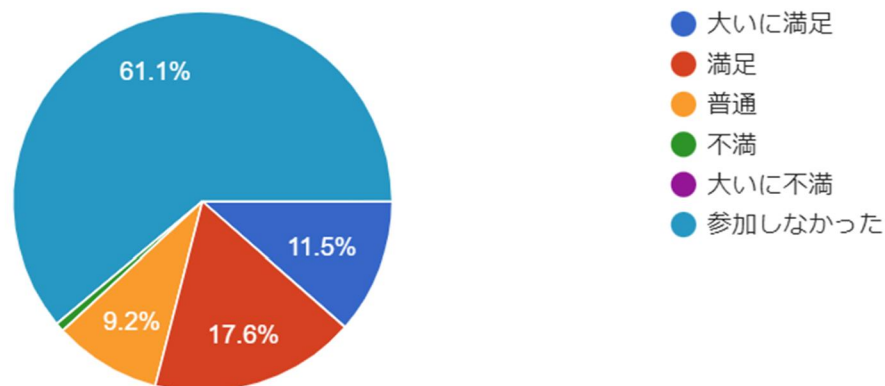
- ・ ACT やりたくなりました。
- ・ ACT に入って日が浅いのでためになりました。
- ・ 初心を思い出しました。研修会を受けると、その気持ちを思い出せるので助かります。
- ・ ACT の基本を実践の立場からの説明だったの大変説得力があり、分かりやすかった。
- ・ 様々な分野で活躍していることに驚いた。引きこもり支援をもっと聞きたいと思いました。
- ・ 人間力をとわれるという事を実感しており、そういった話が聞けたのはよかった。
- ・ 実践されているからこそその思いや取り組みを知ることができました。元気を頂きました。
- ・ 地域性の違いを感じたことと、それぞれ似たような悩みを話されていて安心（笑）しました。
- ・ 様々な職種が集まってのお話、とても面白かったです。職種や立場が違えども、共通した心構え？として「1人の人として関わること」を大切にされているのだなと思いました。そのようなスタンスで関わる事に、病棟からは「やりすぎ」「距離が近い」「よけいなことをするな」との指摘を受けることも多く、私の中でモチベーションが下がっている時期でもありました。同じような思いで活動されている人がこんなにたくさんいるのだと知り、私もまた頑張ろうと思えました。ありがとうございます。また、質問コーナーで触れられていた「かごめかごめ」のお話も、支援をしていく中で陥りやすいことだと改めて気付きました。
- ・ 地域には ACT チームの活動をしていませんが、市役所・往診型の精神科クリニック・訪問看護ステーション・社労士がチームでケース対応をしています。たまたま出来上がったものだったため、本来の ACT とはどういったものか学びたかったため、大変勉強になった。
- ・ 所属されているチームの魅力だけでなく、皆さんの一支援者としての姿勢まで知る機会をいただいたように感じております。今後、対面で全国大会が実施されるようになったら、直接お話できるような機会ができるのかな、と今から楽しみになっております。参加させてもらっているとまだまだお聞きしたいことがいっぱい浮かんでおり、同じようなテーマで継続して実施されると嬉しいと思った自主企画でした。
- ・ どのパネリストの方も連携の重要性を感じてこられたようで、分野などを超えた繋がりをどれだけ地域で作れるのかが当事者の安心できる地域生活に繋がっていくのかなと感じました。
- ・ 皆さんの歴史を知る機会になりました。ACT のことを知りたい方からは基本を学べる機会もあったら

よかったのかなと思いました。

- ・ それぞれの専門職の立場からの視点でお話を頂けたのが嬉しかったです。自分自身を差し出すことは必然的に自己と向き合わなければならない、人間力が試される、は今回の大会の大切な要素であったと感じています。
- ・ アウトリーチのスキルアップに繋がる部会だったと思います。工夫や支援原理はとても参考になりました。分析も大切だが、人と人との出会いが一番大事にしたいと感じました。
- ・ 私たちは利用者に関わる中で、利用者に生活支援と医療のサービスを提供する側と思っていましたが、実は利用者側から育てられているという考えにも共感させられました。一方的に関わるのではなく、共に気づき・発見し、成長していく、ACTは個別支援が大きいので、双方が心から共感してくことも大切だと思いました。

(質問5-③)子ども・若者支援部会はいかがでしたか？

131 件の回答

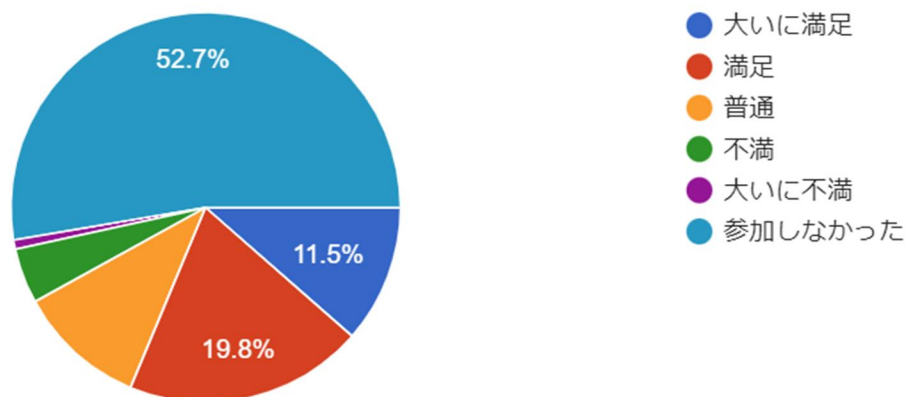


- ・ 自分の知識や知見不足を実感したので、研鑽いたします。
- ・ 素晴らしい支援者がいらっしやることがわかったのと、登壇された方々も人材育成や確保で課題を感じておられることがわかり、色々な面でホッとした。ぜひ連携していきたい。
- ・ S.S.F.谷口さんの話が大変興味があり参加したのですが、今回はこちらの部会に参加できなかったこと、すごく残念です。
- ・ 私には10代の子どもがいますが、その子も精神疾患があり、不登校を経て大学に通っています。日本は少子化ということで子どもへの予算は少ないかもしれませんが、こんなに子どものために頑張っている方々がいるということに日本の未来も悪くないのではと少し希望が見えてきました。私も子育てがほぼ終わり、第2の人生を子ども関係の仕事に就いて頑張ろうか検討中です。当事者目線でなにかしらに関われたらいいなと模索しているところですが、日本の子どもや若い人たちが希望を持って生きることができるようになるのが私の切なる願いです。
- ・ 演者のパワフルさに感銘を受けた。
- ・ とても意義深い内容で大変勉強になりました。こういう分科会が増えていくことを期待します。
- ・ とても貴重な内容だった。

【質問6】 部会による自主企画分代会Ⅱについて教えてください

(質問6-①)訪問医療部会はいかがでしたか？

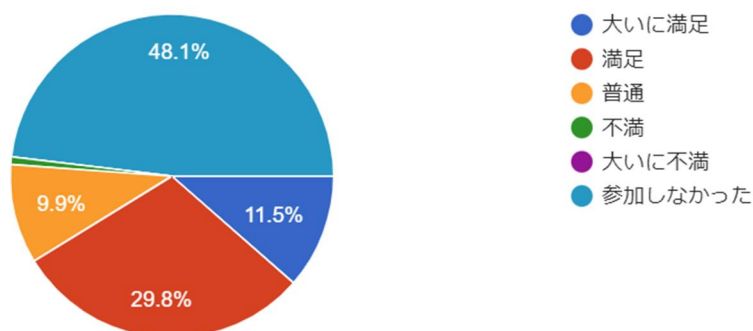
131 件の回答



- ・ 診療報酬のことなど、あまり触れる機会がなかったためお話を聞いてよかったです。
- ・ いろいろな訪問形態の方の話が聞いて良かったです。
- ・ 在宅支援を「病室を移しただけの場としない」という捉え方が印象的でした。
- ・ 具体的でとても参考になった。
- ・ 個人的には浜中さんの実践がとても参考になりました。植田さんの実践からは、志があればどのような形でもアプローチできることを学べたと思います。
- ・ 利用者本人が入院の必要性があっても、本人自身がそれに気付いていないことがある。どうすれば気付けるのか、私たちは強要するのではなく、気づきを提供する心構えも大切だと感じました。

(質問6-③)地域づくり部会はいかがでしたか？

131 件の回答

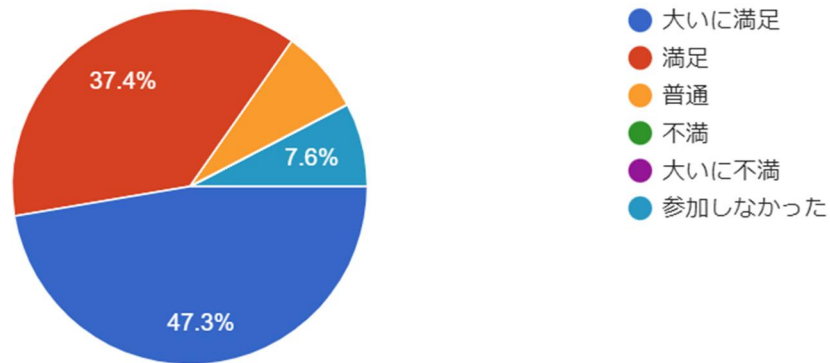


- ・ 皆葛藤や悩みを抱えながら、頑張っておられるのだなと思い、私も頑張ろうと思いました。
- ・ 内容は面白く聞かせてもらった。もっと時間がほしいくらいだった。第2弾、3弾と続くのを楽しみにしている。
- ・ 地域性がわかりました。
- ・ それぞれの「地域」観が実践の中から生まれるって素敵なことだと思いました。
- ・ まだ、自分には見えていないことが多く、続きを聴かせていただきたいなど。
- ・ それぞれの方たちが「動き、作り出した」内容に驚きとともに自身の地域でまだまだたくさんの可能性があるんだと感じました。
- ・ 今の最新の医療福祉は地域の中に当事者たちをどう溶け込ませるかという動きなのだと、感嘆の声を上げました。昔の待遇に比べるといい方向なのだろうけれど、私たちがパイオニアなのだということは風当たりも相当きつそうだと少々憂いています。でもそんな中で伴走されている方々がこんなにいらっしゃるのは、当事者である私たちにとって希望の光だと思っています。
- ・ 個別訪問を続けていくことは勿論大切で、その方のリカバリーをどう進めていくか、利用者さんとの関係性を大切にすることは必要。更に地域の機関と繋がっていくことが大切だと改めて感じました。
- ・ 支援者で囲い込みをしてしまう構図は、知らず知らずのうちにやっちゃっているような気がしました。地域に溶け込める事業所の在り方を考えていきたいです。
- ・ わかりやすかった。地域作りが最近僕のテーマだったのでためになった。
- ・ パネリストの話など、もっと聞いていたい分科会でした。

2日目

【質問7】「アウトリーチネットとは～大切にしていること、めざしたいこと～」はいかがでしたか？

131件の回答

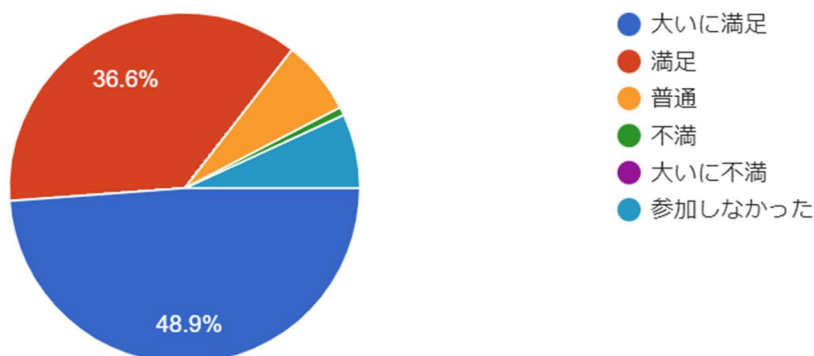


- ・ アウトリーチの目的、ビジョンなどを考える機会になった。
- ・ 短い時間でアウトリーチネットの目指していることがとてもよく理解できました。
- ・ とても良かったです。もしよければ資料を公開してほしいです。
- ・ 経緯を丁寧に誠実に説明いただきわかりやすかった
- ・ 全ての部会に配慮が行き届いた、丁寧なご説明ありがとうございました。
- ・ Drの貴重な話をきけた。また、今後活かしたいと感じる部分もあり勉強になった。
- ・ 自分の行う支援への批判的視点を持つこと、それを誰かと共有することが必要だなと思いました。
- ・ 資料含め、大切にしている思いが伝わる構成でわかりやすかった。
- ・ 仲良くならなくても、排除しない雰囲気・・・そうであればいいなと思いました。
- ・ 梁田さんの「この会が癒しの場になるように」という思いが伝わり、勇気をもらうことができました。ありがとうございます。
- ・ この協会の理念を知れてよかった。揺さぶられる部分があった。
- ・ わかりやすいお話で、たいへん感銘を受けました。
- ・ 笛を吹く話がとても重要な示唆をいただいた気がしました。3人が違う音を出し(同じ音が「わ」ではない)それが合わさることの大切さは良くぞ言語化してくれた、という感じです。ポリフォニックな、というか。
- ・ 長く病院で勤務。院内のヒエラルキー構造に嫌気がして辞めたがそれに守られていたことにも気づいた。今ACTに来て自立や自律の面白さや楽しさを楽しんでいる。
- ・ ACT ネットからアウトリーチへ動きが変化してきた流れ、今後大切にしていきたい思いがとても感じられ、その上で今私やチームは何が出来ようかということを考えたいなと思いながら聴いておりました。
- ・ ACTだけでなく、自分たち福祉職についても医療職から参加のお声がけをしていただけたことが、とても印象的だった。精神保健福祉士ではあるものの、精神科病院での勤務経験がなく困窮や障害者分野で働いている者からしたらハードルが高かったが、医療分野の方からの思いが聞けてよかった。
- ・ アウトリーチネットの目指す方向性がよく分かりました。この目指す方向が実現できるように、私は、高齢で微力ですが何らかの形で関わり続けたいと思います。

- ・ アウトリーチの活動を広く広め、必要な人に必要な支援が届けられるサポート体制を充実させるための説明はわかりやすく、色々な専門職の方々や一般の方々に受け入れやすい内容だった。
- ・ 自分が目指したい支援を改めて考えることができた。和をもって貴しとなす→好きじゃなくても仲良くできなくても排除しない、という言葉を受けてとてもよかった。
- ・ これまでの流れとこれからアウトリーチネットが目指そうとされていることが明確に理解できました。今のアウトリーチネットへ至る流れをプロセスに位置付けることができたことで、自分の中にある期待やこうなったらいいのに…というような思いが、批判になるのではなく参加していくモチベーションになっていく素地をいただいたように思います。ありがとうございました。
- ・ 素人性の必要を支援で感じるがあったり、利用者から逆に教えてもらう機会があったりするのでとても共感できました。
- ・ ACT ネットワークからアウトリーチネットに変わっていったことの意味が分かりました。
- ・ とても分かりやすかったです。
- ・ 日々自身が行っている支援について思い返しなが聴いていました(波長を合わせているか、相手を知ろうとしているか等)。その人の在り方を中心に据えた支援を行うにあたって、相手の強みを知り、そして自分自身を知り、一緒に考えていく姿勢を大事にしたいと思いました。
- ・ 支援者のケアもすごく大切だと共感しました。必要なのは素人性という言葉は、おもしろいなと感じました。ありがとうございました。
- ・ 分かりやすく言語化されたところが感銘を受けました
- ・ とてもわかりやすく、まとまったお話で、且つ心をつかむ内容だったと思います。「ワ」の話は初めて知りましたが、嫌いでも排除しない、という言葉と共に心に留めておきたいと思いました。
- ・ アウトリーチネットが今後、支え手を支える役割を担ってくれと、現場で働く者にとってもとても心強いと思います。好循環が生み出せるよう私たちも協力したいと思います。
- ・ よく理解でき、共感しました
- ・ 利用者自身はそれぞれ長所があり、そこを伸ばしていく機会を与えていくことが大切だと思います。ストレングスをどのように伸ばしていくのか？私たちは、本人の強みを信じて、寄り添い続けることが必要だと感じました。
- ・ この話を聞いただけで、現場に立つ多くの支援者たちは癒され、勇気をもらえたのだと思います。アウトリーチとか専門職とかの枠を超えて、広く世の中の人たちにも聞いてもらいたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 専門用語を使わずに平易な言葉でとてもわかりやすく語られたトラウマ・インフォームド・ケアのお話！
- ・ はじめは鼎談目当てで、正直なところアウトリーチネット自体にはあまり興味はなかったのですが、結果的には全体の中で一番印象深いプログラムとなりました。教育の分野でもご講演願いたいです。
- ・ しっかりとしたお話をしっかりと聞かせていただきました。これからはアウトリーチネットに前向きに建設的にコミットしていきたいと思えました。

【質問8】鼎談「アウトリーチの魅力やアウトリーチで大切にしたいこと」はいかがでしたか？

131 件の回答



- ・ もっと時間をとってほしかった。「個立」っていい言葉だなと思いました。
- ・ アウトリーチにおける現状や課題なども含め、率直な意見を聴くことができました。
- ・ とてもよかったです。3名の方がそれぞれ、率直に語られて、支援者として葛藤を抱えながら実践されている様子がよくわかりました。医師としての視点も勉強になりました。
- ・ 好きな登壇者でしたので、とても有意義な時間でした。
- ・ 実際に支援の場で何が起きているか、それはなぜかわかりやすく、自分の実践の整理に繋がりました。大石先生の話が特に参考になりました。
- ・ 大学で教育もされ、かつアウトリーチ活動をされているオピニオンリーダーの3人の方がアウトリーチを語ってくださること自体がエンパワメントされた。ぜひそれをいろんな場面でもお話いただきたいなと思った。
- ・ 高齢、ホームレス、ひきこもりという異なる対象者に関わる3人の医師の対談は共通点も多く見出すことができ、改めて、課題もより良い方策も共通して考えられる事案だと感じられた。
- ・ 魅力、大切にしたいことという切り口で今回の登壇者の話が聞ける機会というのが珍しく、面白かった。
- ・ 分野は違っても、実践している中で共通に見えてくるものがあるって共感できる部分がたくさんありました。
- ・ 引きこもりや高齢者、ホームレスなどに対するアウトリーチの分野で大切なことなど整理できました。
- ・ 素晴らしい3人の先生のお話に引き込まれました。専門は違っていても、根底にある「価値」というものについてそれぞれの先生がおっしゃられていたこと、改めて気づくことができました。
- ・ 人と関わる中で自分の中にある傲慢さや弱さや醜さが現れた時、一人でその感情と向き合い、処理して参りましたが、もう少し深く考え、省察について試みてみようと思えます。
- ・ 医者の温かみや人間性のようなものが感じられたのがよかった。
- ・ 貴重な鼎談を聞くことができました。勉強になりました。
- ・ 脱線が一番魅力的なお三方でした。あとになって思い出したように魅力や大切にしたいことなど話されていたりとか、笑。生活困窮・ホームレス状態、ひきこもりのひとへのアプローチをしているシンポジストが「脱野宿・社会参加が本当に良いのか？」といった共通の葛藤があるのが、自分自身の問いでもあったのでとても参考になりました。
- ・ 様々な対象者へのアウトリーチの共通点がわかりやすく見えました。
- ・ アウトリーチは奥深いと思った。これで良かったか…常に再考、省察の繰り返しであることに身が引き締まる思いになった

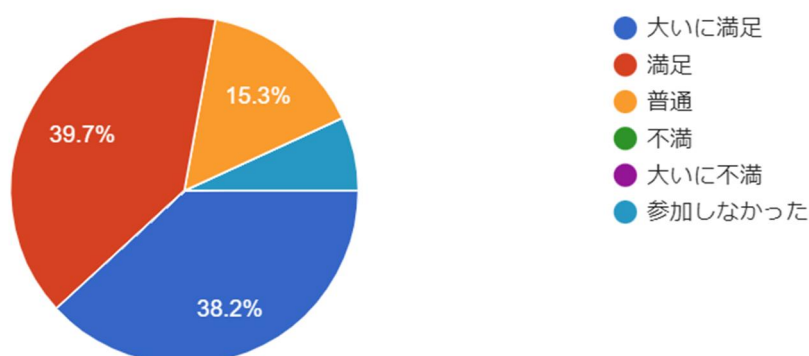
- ・ 何かを取り出されると、その動きや言葉だけが先行していくことの怖さを感じるなか、アウトリーチも、またその一つで…今日の時間は、アウトリーチすること自体を考え続ける良い時間になりました。チームのなかでも、話せていたらよいなと思うテーマです。
- ・ せっかく多職種・超職種が売りなのに医師だけが登壇しているのはちょっと残念でしたが、内容はとても興味深いお話が多くて良かったです。
- ・ ひきこもり状態にある方の支援を行なっているため、斎藤環先生のお話は特にモヤモヤしていた自分の支援の行い方等について間違っていないんだな、と思えたことがよかった。関西圏で斎藤環先生のお話を聞く機会が少なかったため、とてもよかった。また、路上生活の支援とは似た部分があると思っていたが、高齢者支援についても共通点があることに、新しい視点が持てた。
- ・ 今、訪問看護職を卒業後、社会福祉協議会が役所内で運営している、障害者家族のピアとしての障害者の相談業務に月2回だけ関わらせて頂いているが、生活が成りいかなくなつて、役所の窓口に来たが、話を聴いて貰えない、との相談に間々出逢います。このような事が、相談窓口を利用出来ないトラウマになっているのだとあらためて感じました。このような学習の機会を、公の相談窓口機関の関係職員が持てるような働きかけがとても重要と思いました。
- ・ 悩みながらアウトリーチしているのは、同じで、悩む内容も大きくは違わないんだと思うと心強い。河原で立派な小屋を建てて手すりまでつけている方の話を聞くと、そういう人に出会えるのがアウトリーチの魅力だと思った。多くの人が「良し」とする生活でなくても、多くの人と同じでなくても、その人が主観的に満足しているなら、そつと緩やかにつながって、何かSOSが出てきたらそれに対応していけばいいんだ、としたい。(行政や地域住民との兼ね合いで難しい面が多々ありますけど)
- ・ とても心地良さを覚える時間でした。全員男性ではありましたが(笑)女性が同数入っていれば良いかというところではなく、きっと同じテーマで物事を考え、発信する主体がその場にいるかどうかであつて、大事なことは表面上のキレイさではないということを感じました。内容もとても大満足です。まさに時間がもっとあればいいのに、と思いました。
- ・ 3人の医師の方が、アウトリーチを行っていて同じように葛藤を抱えながら活動されているんだなつて思いました。なかなか面白かったです。実践をされているからこそその葛藤で、もっと現場のケースについて話す機会があればと思いました。今回、何故医師だったのかはわかりませんが、多職種で同じテーマでの話も聞いてみたいです。
- ・ それぞれの先生方の話には、訪ねてみないと分からない魅力に溢れていました。もっと時間をとって聴いてみたいと思う位でした。斎藤先生のオープンダイアログについての利点の説明がじっくりきました。
- ・ 認知症、ホームレス、ひきこもり支援のエキスパートの皆様からの、上から医療を押し付けることなく、その人の意志や生活感を尊重しながら支援を探っていく対話に深く共感しました。
- ・ ひきこもり、ホームレス、高齢者など、本人の意向をくみ取りにくいタイトルでの鼎談はとても面白かったです。本当にこれでよかったのか、と私たちも日々再考し続ける支援者でありたいと感じました。
- ・ アウトリーチの魅力を再認識できました。また、別々のアプローチがつながっていく展開が、実際の地域づくりの具体的なイメージに重なりました。
- ・ お三方の話が非常に聞き取りやすく、また内容も理解しやすかった。時折話の方向性が迷子にはなつていたものの、全体的に何を主張されているのかは理解できた。
- ・ いつまでも聞いていたい時間でした。
- ・ 素晴らしかったです。認知症、ホームレス、引きこもりの分野の皆さんのお話はいずれも大変勉強になりました。中でも私にとっては熊倉さんのお話に共感するところが多かったです。支援する側とされる側、本人と家族・近隣住民など、色々な立場が存在することを理解したうえで、それでもその

人の側に立つことを是とする姿勢は3人に共通していたと思います。この鼎談、文字起こし希望です。

- ・ お三方の各現場の様子が垣間見えて興味深かったのと同時に、それぞれのお人柄にほっこりしました。
- ・ アウトリーチネットになったことで、確かに専門性は必要性ですが、私たちが利用者に関わるなかでは専門性を表に出さない方がいい場面もあることに気がきました。あえて素人性を示すことが、利用者への信頼の獲得にもつながると感じました。
- ・ 専門職の価値をめぐる内容、再考・省察を繰り返す演者たち、とても良かったです。もっと時間をとっていただきたかった！ぜひ同じメンバーでの第二弾があることを期待しています！

【質問9】教育講演「感情労働～人とのかかわりを職業とすることの意味～」はいかがでしたか？

131 件の回答



- ・ 感情労働について、より深く学ぶことができましたし、組織的な支援が重要と思います。
- ・ ト라우マをめぐる話と感情労働の話がつながっていくことがある意味「そうだよなあ」と気づかせていただきました。
- ・ とても大切なお話だと思いました。勤務先でシェアしたいと思います。
- ・ 仕事をしているとつらい時がある。感情の捉え方、レジリエンスの上げ方などとても参考になり、救われた気持ちになった。
- ・ 「マイナスの感情表出をむしろやるべきで、それについてどう対応するかを考えるのが大切。」とか「共感にしても巻き込まれないようにという指導は、共感巻き込まれないとできない。」という言葉聞いて腑に落ちた気がします。明日から少し肩の力が抜けそうな気がします。
- ・ 私自身が看護師なので、現象に対して起こる感情や、それに伴う身体的反応について、理解ができました。支援者のケアが必要だと思います。
- ・ まさにこの領域の労働は感情労働なんだという再認識をしました。
- ・ 武井先生のお話はいつも初心に戻れるので聴くたびにホッとします。
- ・ コロナに結び付けてのお話など、今必要な情報でした。
- ・ 自らの感情に向き合うことのきっかけになれば。
- ・ 「感情と看護」は拝読していましたが、改めてわかりやすく、しかも CRVID-19 も踏まえてのお話で、とても深く納得できるし、チームに持ち帰ってみんなで考える材料をたくさん与えていただきました。とても勉強になりました。
- ・ 日頃の自分の業務について振り返るよい機会になりました。
- ・ 巻き込まれてなんぼだと思いました。そこでの自分の気持ちの理解が大切。
- ・ スタッフ一人一人が疲弊しないようにケアが必要と感じた。
- ・ 感情労働という概念を知ることができました。「感情の容器になる。」という体験は親密な依存関係の中で生じやすい、という話に膝を打ちました。生きづらさを抱えた女性を対象とした施設に勤めておりますが、これは親子（母娘）関係によく表れているように感じます。「母の感情のゴミバケツ」としての役割を子どもの頃から十数年にわたってさせられてきた人たちは、それを元の持ち主に返すことができない苦しさを抱えています。
- ・ 感情労働という言葉は初めて耳にしました。立ち止まりながら、自分の感情コントロールを意識して行っていないといけないといけないと改めて考えさせられました。

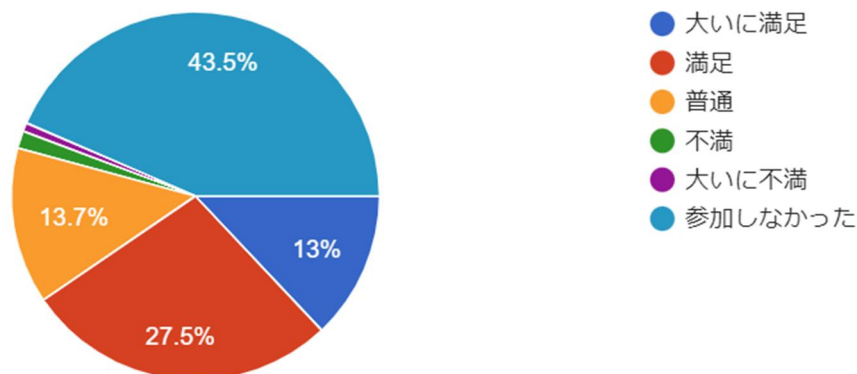
- ・ ステーションに持ち帰って、環境を整える為にステーション内でも共有したいと思う。
- ・ 看護をする上で感じ続けていた孤独感や感情を全て言葉にさせていただいたと思います。癒しの時間でした。ありがとうございました。
- ・ 感情労働者(ケアする者)が利用者(ケアされる者)からケアされることもあり、この仕事がやめられないところもある。
- ・ 実践のなかで起こっている感情の揺れを時にこのようなお話を聴ける場があるのは、とても自身やチームを見つめる良い機会でした。
- ・ 福祉の仕事をしていると、キャビンアテンダントと違い、清く正しく生きないといけないと言ったイメージの仕事が多く、支援職が弱音を吐くことができない。弱音を吐く=未熟ものとのレッテルを貼られる気がして、弱音を吐くことでさえ疲れていた。わかりやすく説明をさせていただいた。
- ・ 最近の関わりで、他の組織の支援者からメールでコメントを頂き、とても憤りを感じた事があり、そのメールを夜明けの早い段階で確認し、そのまま再入眠に入る事ができず、自分の思いをその場でメールにて返信してしまいました。メールでしか連絡が取れない関係の中で、自分が取った行動は相手を傷つけたのでは、との振り返りをしています。あらためて、自分が何に怒りを感じたのかとその怒りの正当性の有無をもう一度確認し、今後の対処について考えていきたいと思いました。
- ・ 支援側の感情コントロールについて学ぶことができ、参加してよかった。
- ・ とても勉強になりました。まさに教育講演会に相応しい内容だったと思います。なぜ看護はこうなんだろう、看護師ではなく看護集団になっていってしまうのだろう…という疑問が少し解けました。今後の看護教育にこのような内容が取り入れられていくと、看護師も働きやすくなると思いましたし、メンタルヘルス領域で働く他職種も同じ内容を基礎研修のように学んでいると、現場の力が上がっていくのではないかと思います。
- ・ 対人援助職として特殊性を自覚しながら支援をしていく必要があるんだなと感じました。
- ・ 私は対人恐怖があるので、人とかかわっている職業の方々に尊敬しています。そんな方々が私たち当事者のせいで二次的被害に遭うこともあるのだと知り、申し訳なさでいっぱいです。でもこの講演で知った知識は、例えば当事者自身も災害などで生かされることもあるかもしれないと思い、知ることが出来て本当に良かったと思っています。もっとこの知識を深く知りたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 感情労働の基本的な考え方は勉強になりました。現場でそれぞれが感じ、悩むことは当然であり、そのことで働くものがこころの痛みとならないような職場環境の大切さを改めて感じました。その組織の中で、自分自身がどんな役割をしたらいいのか考えないといけないのが課題と思いました。
- ・ 支援者としては救われる、温かく包み込んでいただけたような感覚で聞いていました。
- ・ 訪問を終えたらどっと疲れがきます。更にこれで良かったのかと考え続ける毎日です。自分自身の嫌な面を見つめるのは苦痛ですし、相手を知ろうとする中で自分を晒されるのは脅かされると常々感じています。自己受容、自己理解、実に難しい！レジリエンスを育てるのは健康な自己中心性、これが一番印象に残りました。日々気持ちよく働ける職場づくりには必要なことだと思いました。
- ・ ケアをする人をケアする視点、再認識しました。知らないうちに自分の感情に蓋をしていたことに気づかされ、ハッとしました。
- ・ 仮面をつけた笑顔がとても印象に残っています。人と人の関係では、自然体であるほうが信頼関係を築きやすく、自分自身をみてるのかなと感じました。ありがとうございました。
- ・ ケアする人のケアについて、理解が深まりました。
- ・ パワーポイントがしっかりと資料として活用されている。資料にそってお話をされていたので安心して聞くことが出来、また理解もしやすかった。願わくは質問をしたかった。

- ・ コロナ禍に感じていたこと感覚を言語化されたことで理解が深まった。
- ・ 感情労働についての講演は初めて参加しました。トラウマや PTSD については勉強になりましたし、自分の感情を受容することの大切さや、普段の仕事が”感情の器になる体験”の繰り返しなんだと気づかされました。”健康な自己中心性”が大切という最後の締めに合点がいました。ありがとうございました。
- ・ 共感的理解について、私たちは利用者のあるがままを共感することが大切だと感じました。しかし利用者独自の世界観、感情に囚われてはいけない。また感情労働には表層演技と深層演技があり、普段の私たちは表層演技の中で利用者に関わることが多いと感じました。しかし本当に心から思っていることを利用者へ伝えていくことも大切だと感じました。そこには信頼が深く関わってくると思います。多職種連携でも言えることです。私たちは普段から、自分たちが思っていること、感じていることを伝えていく意識が大切なんだと思います。
- ・ 改めて大変勉強になりました。ケアする人にもケアが必要の話は、シンポジウムに始まってアウトリーチネットのお話、鼎談、教育講演にいたるまで大会全体に通じていたテーマのようで、今の時代に必要な内容だと思いました。

【質問10】 部会による自主企画分代会Ⅲについて教えてください

(質問10-①)ACT部会(応用編)はいかがでしたか？

131件の回答

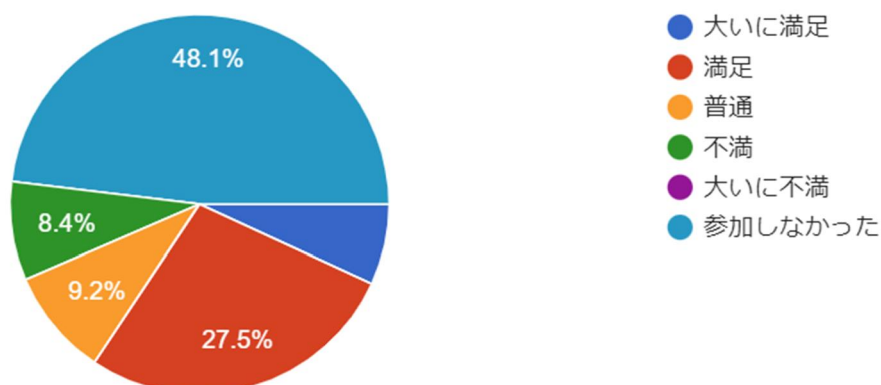


- ・ さまざまな思いを聞いていろいろな思いが巡りました。ありがとうございました。
- ・ どうしたらチーム力が上がるか？の話題は参考になりました。
- ・ 穏やかな語り口と最後のプログラムだったのでがっちり決めすぎてないところが却ってよかった。ただ、ACTを知らない人が聞くと、それでもイメージしにくいのかもかもしれないので、次回は事例やどのように関わったかなど、もっと突っ込んだ内容でもいいかもしれません。
- ・ どのチームもいろいろな悩みながら模索しながらやっている感じがよくわかりました。最初の紹介スライドがもう一步踏み込んだものとなっていたら、その後の展開がより深まったかもしれません。でも、率直なトークが、勉強にもなり、励まされました。
- ・ 実際に活動しているそれぞれの団体のスタッフ構成や運営の方法、悩みがわかり参考になった。
- ・ コロナ禍で密を避けるため、公園で集まってミーティングしていたことなどを思い出しました。絶えずコミュニケーションをとりながら、チームとして生き物のように成長していくんだなあと振り返ることができました。
- ・ 他のチームの雰囲気がわかってよかった。
- ・ ACTに関わっている方の悩みやACTの良さをどう感じているか生で聞けて良かった。
- ・ ACT初心者ですが、皆さん魅力的な活動をされていて、励みになりました。楽しそうで素晴らしかったです。
- ・ それぞれのチーム構成などが示されていて興味深く拝聴しました。分科会で示されていた資料があったらほしい。
- ・ チームの大切さが伝わってきた。
- ・ お疲れさまでした。お顔拝見できたこと嬉しかったです。この時間足りないなって思う感覚がまた良いのかもしれないですね。やりとりを見ながら、互いのチームについて知れると、行ってみたいと思うことへの不思議さを感じていました。ACT部会を介して、互いに伺える機会が作れたら良いなど。
- ・ 実際に場を共有して、チーム作りについてもっと色々お話を聞きたいです。
- ・ それぞれのチームで働いているスタッフさん達に会ってみたいと思える時間でした。チームをめぐってのご苦労は、支援に真摯に向き合っている支援者ならではのご苦労なんだろうと思います。学び続けることができたらいいなと思いました。
- ・ それぞれのチームの頑張りが見えて励みになりました。ありがとうございました。

- ・ ミーティングの必要性がとても印象に残っています。チーム間の情報共有だけでなく、担当者の負担軽減（責任）になっているんだなと感じました。
- ・ 多職種での意見交換は日頃から大切だと感じました。相手の話を聞く上でも大切なことがあります。相手の話を否定しない。共感する。その上で思っていること、感じていることがあったら伝える。伝え方も大切だと思いました。チーム力を高めるために、仕事だけの話ではなく、日ごろの雑談も大切なんだと思いました。

(質問10-③)訪問支援・訪問看護部会はいかがでしたか？

131 件の回答



- ・ リフレクティングでのやり取りがよかったです。特に、ポルケ山田さんの言葉が心に残りました。参加者が支援者ばかりなので、ユーザーの方からのお話しも聞きたかったです。
- ・ 内容はとても良かったです。ただオープンダイアログっぽいのかな、と思いましたけどちょっと違う感じでしたね…。それでも対話的でよかったです！
- ・ 運営の皆様、お疲れ様でした。オンラインではもったいないくらい、もっと参加者と話したくなるような研修会でした。ぜひ次回は対面で開催できるといいですね。
- ・ 率直に抱えている疑問や考え方を聞けました。講義形式はあるものの、対談形式は少ないのでとても勉強になりました。自分も制度のことや地域のことを知らないといけないと思いました。
- ・ 訪問看護ステーションに求められるものが大きい事を感じたが、実際に行う為には、ハードルが高いと感じている。
- ・ ACT を経験された方からも、地域の力を利用した ACT のような形のを模索される意見があった。私の地域ではたまたま、市役所の 1 部門と往診型精神科クリニックと訪問看護ステーションと社労士がチームになって動いており、それを ACT のルールの形に持って行ったほうがメリットがあるのかと思っていたが、今のままでいいのではないかと思えた。ただ、こういうような場に参加して、新しい視点や風を入れる必要があるとおもえた。
- ・ 今、当事者会や家族会の方々と関わる機会が増えています。その中で、形式的な訪問看護への不信感のような声が少なくありません。利用者のニーズに基づいた訪問看護の価値を実践を通じて広めて行ってほしいと思います。
- ・ 時間が少なかったのがとても残念なくらい、とても濃い内容の会でした。第 2 回、第 3 回と続くといいなと願ってやみません。
- ・ ずっと ACT の中にいたので、ACT と単独の訪問看護との違いについて知りたいと思い参加しました。今回は ACT 経験者の方がおられたので、他機関や地域とのつながりの必要性を実感されているとの話だったかと思いますが、質問の中で、訪問看護が病院の出先機関となっているところが多いとあり、「現実的には訪問先が病院になっている」「早期介入で薬の話になる」との話があり驚きでもありました。私は「早期介入」の言葉が直ぐ「薬や入院」と思っではおらず、利用者さんの生活の場で如何に一緒にどう乗り越えるかを考えることが早期介入と思っています。また、マネジメントは ACT が行ない抱え込みとなっているという現象は変わってきていると思います。自立支援協議会の話が出ていましたが、地域によって違うのかもしれませんが、「医療」と「福祉」との協働の場になっていくためにも積極的に関わっていく必要があると感じました。

- ・ 私自身も訪問支援を開始して、病棟時代には知らなかったことばかりで愕然とした事を思い出しました。連携とはよく言いますが、実際にはどこまでつながるのか、どこまでお互いを理解しているのか、課題も沢山あると感じました。
- ・ 経営的な側面の話も出ていたかと思います。やはりアウトリーチによる医療費の抑制は行政に訴える上では指標になるかなと考えています。雑に言うと入院しているよりも通院の方が掛かる医療費は少ない。これをどうやったら示せるかで政策にも主張できるかなと考えます

【質問 11】 今後、アウトリーチネットの活動に期待されることがありましたらご記入ください。

- ・ 自殺にどう向き合うかを知りたい。
- ・ 多機関連携でのマネジメント。
- ・ 対面での大会が開催される状況になることを心から期待します。また現在アウトリーチの必要性を感じながら活動を起こせていない地域、組織に向けてアピールできる部分もなお増えるとよいと思いました。
- ・ アウトリーチを行う精神科医の拡充。
- ・ 私は精神障害者のグループホーム職員です。そこから関われるアウトリーチも勉強できたら良いなと思いました。
- ・ 各分野での協働（臨床、研修など）。
- ・ 全国大会はよかったと思います。分科会などの資料も抄録としていただけるとありがたいです。
- ・ アウトリーチについての学びだけでなく、熱心に活動している支援者が全国にたくさんいることを知りとても励みになりました。今回の全国大会の中でもお話があったように、アウトリーチネットが日々の実践の癒しの場で今後もあってほしいなと思います。
- ・ とても有意義な時間となりました。訪問の仕事をしなが、日々悩んでおりますが、それも大事なことであるし、それでもいいんだと安心しました。その一方で限界を自分で決めてしまっていたケースがまだまだあることにも気付かされ、また明日から頑張ろうと思えました。皆さまありがとうございました。今後もこのような機会があれば参加させていただきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ やはり、新人向け、中堅、リーダー研修とかできるとありがたいけれど…でも今回のものだけでも、本当に大変だったと思います。ありがとうございました。
- ・ 次回はぜひ対面で全国大会が開催できるといいですね。
- ・ 新人向けプログラム。
- ・ 職種ごとに意見交換をするような企画をお願いしたいです。
- ・ 学びの多い企画を今後も続けてほしい。
- ・ これからの医療、福祉を引っ張っていく原動力になっていく活動なのだと思います。
- ・ アウトリーチ実践者の拠り所となる存在であってください。
- ・ 色々な研修会がまた再開されると嬉しいです。
- ・ 1日も早く日本に ACT を基本としたアウトリーチネットを広めて欲しい。
- ・ 来年は対面で行うとのこと、楽しみにしております。
- ・ アウトリーチの研修をこれからも続けてほしい。
- ・ このような研修の場を継続して作ってもらいたい。研修には資料があると書き込んだり、わからないことが調べられたりする為ありがたい。質問と回答を後日見られるように配布してもらえるとありがたい。
- ・ ACT のフィデリティ調査のようにアウトリーチの評価軸のようなことがあると相互に技術や経験、アプローチなどを振り返る（「省察」）ことができるのかな？と今回の研修で思いました。
- ・ ACT 新任者、新卒者用の新人教育資材があればいい。
- ・ 医療職だけのものだと思っていた ACT が私のような福祉職が参加できる場であったところがよかった。だからアウトリーチネットなのかと。いろんな職種が参加できるような場になれば。
- ・ 今回は、1 日目の分は今後アーカイブで確認したいと思います。運営に関わられた方、このような企画運営有難う御座います。今後共よろしく願いいたします。
- ・ 国の制度として活動できれば良いと思う。

- ・ お忙しい通常業務の傍ら、全国研修会を開催して下さり本当にありがとうございます。全国各地で様々な形でアウトリーチをしている方のお話を聞けるととても励みになります。今後も全国研修会やもっと小規模の研修や交流の場を作って下さると嬉しいです。自分の職場だけでいるとどうしても視野が狭くなってしまいますので、外の風に触れる機会はとても貴重だと思いました。
- ・ このような大会や研修会を通して、ネットワークのハブであり続けて欲しいです。どのような実践であろうと主流でない限りいずれ瓦解の危機に晒されてしまうように思います。その時の支えになるのは、アウトリーチネットのような存在であると思います。
- ・ 当事者目線でいうと、子どもたちへの教育（精神疾患、障害についてなど）も大事だし、地域の住民への啓もう活動、メディア関係者への報道倫理の教育なんかも大切かなと思いました（既に実践されているのかもしれませんが）。
- ・ 様々なアウトリーチの実践者を繋げる、支える、原点に立ち返られる居場所になってほしいと思います。
- ・ 時々このような、自分が何を目指していたのか確認できる機会を作っていただきたいです。さもないと、日常に埋没され、当事者の思いや生活を大事にしようとすることに疲れてしまいそうです。
- ・ 生活保護における訪問はセルフスティグマにもなりうる側面がある一方で、様々な事情を抱えている方々の貴重な情報が得られるアウトリーチだと思います。負担(トラウマにもなりうる)を強いまで行われているにもかかわらず、それがあまり生かされていないのが現状なのかと。あらゆる社会問題が背景にある困窮や生保に係る職種や機関がこのような場にもっと参加するようになればと、巻き込む取り組みを期待しています。
- ・ 積極的に参加したい。
- ・ 交流ができる機会があれば良いと思います。
- ・ 部会活動をもっと活性化させてほしい。
- ・ 支える人を支える場になってもらえるとよいと思いました。頑張ってください。
- ・ 対面での全国大会実施を期待しています。ぜひ直接先生方の貴重な話を聞きたいです。
- ・ 今後は対面での研修会を楽しみにしています。
- ・ 代表の方の「わ」の話には感心いたしました。アウトリーチネットの今後のさらなるご発展を期待しております。